

- 1 . レポート回数：第 1 回（ 4 月 2 0 日 ）レポート
- 2 . 課題名：海外と日本 - 翻訳機能を利用した同一内容記事の比較 -
- 3 . 内容：『イラク日本人人質解放～海外と日本の評価の違い～』

## 検索ツール

Yahoo ! JAPAN 検索方法「新聞 コラム 社説」 <http://www.yahoo.co.jp/>

読 売 新 聞 <http://www.yomiuri.co.jp/editorial/>

毎 日 新 聞 <http://www.mainichi-msn.co.jp/column/yoroku/archive/>

朝 日 新 聞 <http://www.asahi.com/paper/column.html>

日 本 経 済 新 聞 <http://www.nikkei.co.jp/news/shasetsu/ichiran.html>

G o o g l e 海外の新聞を検索する際に使用 <http://www.google.co.jp/>

A P 通 信 <http://www.ap.org/>

ニューヨーク・タイムズ <http://www.nytimes.com/>

CNN テレ ビ <http://edition.cnn.com/mostpopular/>

@ n i f t y 英字新聞の翻訳に使用 <http://www.nifty.com/globalgate/?top4>

「海外と日本」という事であったので、日本の四大新聞の社説等をもってこの事件に関する日本の声とし、海外メディアは、この事件とも関係が深いアメリカのメジャーなメディアを取り上げることにした。

## 読売新聞 社説 4月18日 要約

[2邦人解放]「同じ愚を繰り返してはならない」

イラクで武装勢力に拉致、拘束されていたフリーライターら二人の日本人が解放され、無事保護された事件に関して。

最悪の事態を招くことなく事件が解決したのは、政府の、「イラクに派遣されている自衛隊の撤退などあり得ない、という毅然とした対応があったからこそだろう」と

し、「武装勢力の要求に屈していたら、かえって、日本人の拉致、拘束事件を誘発する恐れもあった」と続けられている。

日本人が拘束された二つの事件の異なる点にも触れており、「最も顕著なのは、家族の対応だ」としている。

三人の人質事件では、家族は犯行グループの 自衛隊撤退 を代弁し、公の場で政府に自衛隊の撤退を求める“政治的発言”を行なってきた。

しかし、今回の二人の事件では、二人の家族に政治的言動はなかった。

この様な対応を読売新聞では、「かえって問題の解決を妨げる恐れがあっただろう」としている。また「仮に自衛隊撤退などをした場合、日本は民間人を拉致、拘束して脅迫すれば、容易に重要政策を変える国だと思われる。日本は、国際社会から軽侮されることだろう」とも記されている。

記事の最後は、「政府は事件の再発防止のために、再三、イラクからの「退避勧告」を出し、無謀な行動を取らないよう国民に訴えてきた」「危険でもあえて現場へ行こうとしたのは、自己責任の覚悟があつてのことかもしれない。だが、やはり甘かったのではないか」という結びで終わられている。

## 毎日新聞 余禄 4月17日 要約

最初に起きた3人の日本人人質解放事件に関して。

「旅は人を謙虚にする。世の中で人間の占める立場がいかにささやかなものであるかを、つくづく悟らされるからだ」と言うのは作家フロベールだ。捕らわれの旅から帰った3人にはもちろん、その解放を願う日本社会もかつてない試練にさらされた8日間だった▲まず解放された3人には、その無事を心から喜びたい。人質事件の犯人が狙うのは、人質の安全を願うすべての人々の心の支配である。3人には、その解放を祈る多くの国民の心がともに捕らわれの境遇に置かれたことの重さを深くかみしめてもらいたい▲3人の家族も厳しい立場に置かれた。ひたすら人質を思う無力な立場での感情的言動が、世論の励ましや支援の一方で、厳しい批判を招きもした。その中の一部の心ない中傷が、試練と向き合った私たちの社会の底の浅さを示したとすれば残念だ▲「自己責任」という言葉を突きつけられた個人の善意も試練にさらされた。むき出しの力が交錯する場所では、いつも善意が善をもたらすとは限らない。時には思慮を伴わない善意が、途方もない惨害を招くこと

すらある。それを防ぐのは個々人の慎重さと責任感である▲心の支配を図る犯人が投げかけた政治的試練に対し「脅迫には屈しない」という明快な意思を投げ返した政府の選択は正しいだろう。一方で、人質のイラク人への思いは世界中のさまざまな立場の人々を事件解決へ動かしたように見える。試練の中の“希望”は辛うじて生き残った▲試練の旅からの帰還は物語の典型的ハッピーエンドだ。が、新たに姿を消した2人の行方はまだ不明だ。解放された3人には救われた命を自ら生かす長い人生が待っている。イラクの人々の苦悩もなお続く。物語ならぬ現実に終わりはない。

## 朝日新聞 天声人語 4月20日 要約

「自己責任」という言葉について追求している。

今回この言葉の多くは武装グループに拘束された人たちの行動や判断を批判したり、救出費用を問題視したりする時に聞く。

数冊の辞書に当たったが「自己責任」は載っていなかった。新しい言葉だからかとも思い、さかのぼってみると、そうでもない。戦後間もない47年の国会議事録に、自由主義の特性として「自己責任においてイニシアチヴをとつていく」とある。近頃では、投資や経営など経済の世界でよく聞いたが、人命にかかわる事件で個々の被害者に対して使われるのはまれだろう。

今回の「自己責任」には「自分でしたことの結果に『自分だけで』責めを負う」というような強調が感じられる。責任に、もう一つ自己を重ねたところが重苦しい。

「自己責任」という言葉が、事件の背景や、イラクの現状をもたらしたもののへの視点を失わせる「目隠し」になってはいないだろうか。

5人にも、それぞれの「責任」はあった。しかし、銃を突きつけられ、命を脅かされたことが「結果に責めを負うこと」だったのではないかと結ばれている。

## 日本経済新聞 社説 4月16日 全文

多くの教訓残した邦人3人の解放

イラクで拘束されていた日本人3人がおよそ一週間ぶりに無事解放された。3人はイラク・イスラム聖職者協会の手を経て、バグダッドの日本大使館に保護された。3人の解放をまず喜びたい。イラクの人々を支援したいという動機で現地に赴きながら、拘束を受け、死の恐怖にさらされてきた3人の精神的苦痛は察するに余りある。家族の心痛も大変なものだったろう。だが、今回の事件は多くの教訓を残した。

善意から出た行動とはいえ、危険なイラクに政府の渡航自粛勧告を無視して入国した人質3人には反省すべき点がある。3人の行動は自衛隊のイラクへの人道支援活動はもちろん日本の外交政策を束縛しかねなかったからだ。今後の邦人の海外での行動の教訓とすべきだ。

最終的に解放したとはいえ、一般市民を人質にとり、自衛隊のイラクからの撤退を要求した犯人グループの行為は許し難い。改めて、その卑劣さを強く非難する。

人質解放にあたって米国や各国関係者の協力に感謝したい。イラクの宗教指導者は粘り強く犯人グループを説得してくれた。イラクの宗教界の影響力の大きさとともに、宗教界が今後のイラクの安定の要であることを認識させるものだった。

日本政府は今回、犯人グループの要求を当初からはねつけ、「自衛隊は人道復興支援に行っており撤退はあり得ない」との方針を貫き、妥協をしなかった。政府の一貫した対応は評価できる。

日本にはテロリストに対して超法規的な対応をとった1977年のダッカ事件の苦い教訓がある。今回はそれが生かされた。こうした政府の姿勢は今後、イラクを含め世界で日本人の誘拐、拘束事件を予防する効果があろう。日本を脅迫しても、不法な要求は受け入れられないことを世界に示したからである。

小泉政権が確固たる姿勢を堅持できた背景には世論の支持も大きかった。テロリストなどの脅迫に屈しやすい、といわれてきた日本国民にとって今回の事件は結束と覚悟を問われる大きな試練だった。国民の多くが不法に屈しない考えを示したことの意義は決して小さくない。

3人の解放を手放しで喜んでいるわけにはいかない。日本人2人が行方不明になっており、イタリアなど多数の国の一般市民が人質になっている。イラク情勢は、ファルージャ付近では米軍とイラク人武装グループの間で緊張が続くなど、予断は許さない。日本は改めてイラクの復興・安定に取り組む必要がある。

## Japan Aid Worker Defends Presence in Iraq

日本救助作業者はイラクで存在を防御します

TOKYO (AP) -- The head of a Japanese aid group on Friday brushed aside charges that aid workers were reckless for ignoring official advisories to leave Iraq, amid a national debate sparked by the kidnapping of five Japanese civilians in the Mideast nation.

東京(AP)--金曜日の日本の援助グループの頭は、中東の国家の5人の日本の民間人の誘拐により口火を切られた全国討論の中に、救助作業者がイラクを去るために公式勧告を無視することには無謀だったというチャージを払いのけました。

Five Japanese civilians - an aid worker, two activists, and two journalists - were among a spate of foreigners kidnapped and held hostage in Iraq this month. All were released unharmed.

日本の5人の民間人(救助作業者、2人の活動家および2人のジャーナリスト)が、誘拐された多量の外国人の一人で、今月イラクで人質を拘留しました。すべては無事でリリースされました。

They came home this week to relief as well as criticism that they were partially to blame for ignoring a series of evacuation advisories issued by the Japanese government after war broke out in Iraq last March.

彼らは、戦争が先の3月にイラクで起こった後日本政府によって出された一連の撤退勧告の無視に対して、部分的に責任があったという批判と同様に軽減に今週帰宅しました。

Michiya Kumaoka, president of the Japan International Volunteer Center, defended their presence in Iraq and said: "We take responsibility for our decisions."

Michiya Kumaoka(日本の国際的なボランティアのセンターの社長)はイラクで彼らの存在を防御し言いました:「私たちは、決定に対する責任をとります。」

"There's an unspoken understanding in the government that volunteer groups and journalists are going to enter war zones and that such warnings are mainly intended for travelers, tourists and business people," he said.

「政府でボランティア・グループおよびジャーナリストが交戦地帯に入り、そのような警告が旅行者、観光客およびビジネスマンのために主として意図されるという無言の理解があります」と彼は言いました。

Kumaoka, whose group is supplying medicine to two children's hospitals in Baghdad, decided to pull out its only representative in Iraq only this month as fighting escalating across the country.

Kumaoka(バグダッドの2つの小児科病院にそのグループは医学を供給している)は、今月国中で拡大して戦うこととしてイラクのみでそのただ一人の代表を撤退させることを決定しました。

While emphasizing that aid workers like himself accept the consequences of the risks they take, Kumaoka argued that all governments have a duty to protect their citizens.

彼自身のような救助作業者が、それらが冒す危険の結果を受理することを強調している間、Kumaoka は政府がみなそれらの市民を保護する義務を持っていると主張しました。

"We've been criticized by people who say we presume we'll be rescued because we're supposed to be 'doing good,'" he said. "But the government has a duty to act if something happens to any of its citizens."

「私たち「行っていると思われるので救出されるだろうと私たちが考えると言う人々によって批評された、よい」彼は言いました。「しかし、政府には、何かはその市民のうちの誰の身にでもふりかかる場合に作用する義務があります。」

Japanese officials have said they plan to charge the hostages for the costs of flying them back to Japan - a decision Kumaoka said he "couldn't understand."

日本の政府関係者は、人質に日本へ?それらを空輸するコストの代金を請求するのを彼らが計画すると言いました。決定 Kumaoka は、彼が「理解することができなかった」と言いました。

He said there had been "no such debate" about footing the bill when a Japanese businessman kidnapped in the Philippines was released after a long period in captivity. 彼は、「そのような討論」がフィリピンで誘拐された日本のビジネスマンが束縛での長い期間の後に解放された時勘定を支払うことに関してなかったと言いました。

Copyright 2004 Associated Press. All rights reserved.

著作権 2004 年の AP 通信社。著作権保有。

## 比較結果

イラクにおける日本人人質事件が、日本に及ぼした影響は様々な意味で大きいものだと考えられる。日本のメディアにおいてもその意見は統一されたものではなく、【読売新聞】では政府の武装勢力に対する毅然とした態度を評価すると共に、人質になった人々が避難勧告にも拘らず現地へ赴いた事への批判が書かれていた。

一方で、【朝日新聞】は「自己責任」というこの事件が語られる上でよく耳にする言葉へ疑問を投げかけている。「自己責任」という言葉が、事件の背景やイラクの現状をもたらしたものの視点を見失わせる目隠しになってしまっているのではないかと、命を脅かされたことがすでに「自ら責め負う事」であったのではないかと、このような問いがされていた。

また海外の【AP 通信】では、最初の人質であった3名が「政府の警告を無視した」「自衛隊を危険にさらした」という理由で非難されていることに対し、「危険を恐れない国民がいることを日本人は誇りに思うべきだ」とのパウエル米 국무長官発言を使って、日本人の反応に異議を唱えていた。

## ニューヨークタイムズ紙・CNN ニュースに関して

- ・ニューヨークタイムズ紙は HP までたどり着き、記事を発見したが会員登録制になっていた為、内容を見る事ができなかった。
- ・CNN ニュースは HP があった為、始めの検索ツールに挙げておいたが、日本人質解放に関する放送内容を HP 上で見つける事が出来なかった。

### 感想

今回この事件の発する「自己責任」という言葉がどのようなものであるのか私自身がとても気になっていた事もあり、この課題するにあたりこの内容を選択する事にした。日本国内のメディアはこの事件に関して、それぞれ違う見解を示しており、新たな考え方を学ぶ事が出来た。しかし、海外の AP 通信や、今回は取り上げなかった南ドイツの記事などでは一貫して、日本の「自己責任論」に異議を唱えていた点もとても興味深かった。

### 講評

1. ファイル名の付け方：指示通り
2. レポートの書式：指示通り
3. レポートの内容：このレポートはインターネット上に提供されている翻訳機能に関する技術的検証を目的としていました。提出されたレポートはそれよりも一歩踏み込んだ内容をテーマとしており、当方の期待とはややずれるものでした。しかし、直接翻訳機能に関する記述は見られないものの明らかにその機能を使っていることが見られますので、これで結構です。このようなことは他の教員はいざ知らず、私にとってはレポートを読む楽しみの一つです。
4. レポートの記述方法：ワープロ機能を使えば、フォント、ボ数、イタリック、強調、アンダーラインなど様々な機能を使用できますが、それよりも改行、箇条書き、空白、インデントなどのテクニックを使用するのが最初ではないかと思います。これはテキストを図化（私の言葉と思いますが）し、一覧性を持たせることにより、相手に読ませる力をレポートに与えることになると思います。

成績： 9 点